

5周年おめでとうございます。

早いものですね。木枯らしの吹く12月、八戸ブックセンターの開設時のことは私としても忘れることができません。ブックセンター開設にあたり、僭越ながら意見を述べさせて頂くことができました関係でオープニングセレモニーに参列させて頂きました。その日の私の興味は、これから多いに利用させて頂く読書会ルームと、昔懐かしいハンモックでした。人が沢山いる中で年寄りがそれに乗って読書するなんて…。とても勇気がいることでしたが、先ずは試しと、ハンモックに座り、サイドの本箱から本(確か“死”に関する本が並んでいたような? なんでこの安らぎの場と思った記憶あり(笑))を取った途端、「取材させて頂いてよろしいですか?」と某TV社から声が掛かり、「赤字が毎年4千万出ることにはどう思いますか?」と言う言葉に冷水を浴びせられた感じになりました。その件に関しては、開設までの道のりの中で周囲から言われてきた事でしたので、読書の大切さを理解し、これからの人材育成、未来にかける先行投資という事を考えると、赤字は否ではなく、将来可となり八戸の財産になります。と、答えたかったのですが、質問に「市営なんて直ぐ潰れるのでは? 税金が無駄に使われていると反対している意見を聞き出したい。」と言う含みを感じて慚然と「このように税金が使われていいと思います」としか答えなかったように思います。

日本ではじめての市営の本屋さん。全国から注目を集めての開設時の一コマを走馬灯のように思い出します。

しかし、あれからブックセンターは潰れるどころか益々「本のまち八戸」に相応しいセンターとして多方面にアンテナを張り、地方では今までできなかった本に関するギャラリー展を開催するなど、市民へ刺激を与え読書推進のために貢献してきました。

私が東京での会合に出席した折に『八戸ブックセンター』に行ってみたいのよ。」とか、「行ってきました。羨ましい!」とかの声を聞くことが多く、実際、読書会の様子を他県の有名校の大学生達が見学に来られたり、卒業論文のために訪問されていた学生にお会いしたりしました。このように市内だけではなく八戸を全国に知らしめた功績は多大であると思います。

私が関わっております(一社)八戸市読書団体連合会には一五団体の読書会があり、各々が読書会ルームを使用させて頂いたり、「ひと棚」コーナーに各団体のテーマ本を一堂に集めて興味の惹く展示をして下さったことにより読書会に入って下さる方が少しずつ増えています。

また当会の事業の一つであります『作家を囲む読書会』では、ブックセンターが作家へのアプローチをして下さり実現したものもありましたし、逆に私たちが知り得た情報で作家に結びついたものもあったと思います。このように、お互いの事業の情報を交換し合い、共有し合うことにより「本のまち八戸」の発展があると思いますのでこれからもよろしくお願い致します。

代官山の蔦屋のように高級過ぎず、でも沢山のかまりっこを頂戴し、下北沢の内沼晋太郎氏（八戸ブックセンターのディレクター）のお店「B&B」より素敵に出来上がった（と私は思っています）『八戸ブックセンター』のパワーアップを期待したいと思います。

前田敏子 toshiko maeda

八戸市読書団体連合会

本のまち読書会スペシャル「はじめての朗読
教室：朗読の基本のキを学ぶ」(2019)ほか

青森県金木生まれ。八戸市在住。八戸市
読書団体連合会読書部会長。出版文化産
業振興財団(JPIC)読書アドバイザー。「山
根基世の朗読指導者養成講座」修了第1
期生。

